

54	水疱性口内炎ウイルス	OIE 2010 May 27	米国における水疱性口内炎ウイルス: 発生日 2010年5月17日、最初の確定日 2010年5月26日、報告日 2010年5月27日、原因 水疱性口内炎ウイルス。2010年5月17日にARIZONAで水疱性口内炎ウイルスのアウトブレイクが発生した。飼育頭数は乳牛5頭・ウマ科5頭、確定例はウマ科3頭であった。
55	チクングニヤウイルス感染	CDC/Traveler's Health 2010 April 7	2010年4月7日現在のアジアおよびインド洋におけるチクングニヤ熱のアウトブレイクについてCDCが報告した。当該地域における最近のチクングニヤ活動の高い地域は、インドネシア、タイおよびマレーシアであり、各国のアウトブレイク状況が示された。患者へのアドバイスとして、チクングニヤはマalariaやデングと発熱・悪寒・全身筋肉痛などの症状が似ているが、チクングニヤにおいては、急性期後に関節痛や関節炎が長引き、リウマチの検査が必要と思われることがある。また、当該疾病が報告されている地域への渡航者に向け、露出している肌への虫除けの使用など、アドバイスも掲載されている。
56	黄熱	CDC/MMWR 2010; 59(5): 130-132 (February 12)	2009年4月、ブラジルにおいて母親が分娩後に黄熱ワクチンを接種し、黄熱ワクチンウイルスが母乳を介して乳児へ伝播したとの報告がなされた。乳児はほぼ母乳のみで育ち、生後23日に抗痙攣薬に治療を要する発作で入院し、髄膜炎の治療のため抗菌・ウイルス剤が投与された。乳児のCSF(脳脊髄液)からは17DD黄熱ワクチンウイルスが検出され、血清およびCSFに黄熱特異的なIgM抗体も検出された。調査の結果、乳児は母乳を介した黄熱ワクチンウイルス感染と特定され、黄熱ウイルスの曝露が避けられないもしくは延期できない場合を除き、授乳中の女性への黄熱ワクチン接種は行うべきではない。
57	デング熱	AABB Annual Meeting and TXPO; 2009 Oct. 24-27; New Orleans (Transfusion 2009; 49 suppl. S66-030G)	プエルトリコ(PR)では2007年に2005年のアウトブレイクより更に大きなデング熱アウトブレイクが起き、この間の供血者におけるデング熱ウイルス血症の割合について調査が行われた。調査用に保存された供血サンプルは米園およびPRで輸血されたユニットであり、TMA (transcription mediated amplification assay)で初回陽性(Initially reactive:IR)であったサンプルは再検査が行われ、再度陽性(repeat reactive:RR)を示した場合には追加の検査が行われ確定された。検査が実施された15,350試料のうちIRは28、RRは25試料であり、陽性の割合は1:614であった。陽性血液のうち12例(1:533)がPRから米国に輸出され、13例(1:689)がPRに残った。RRサンプル中約半数はIgM陰性で高力価ウイルス血症を示し、細胞培養検査において感染性が認められた。デング熱が流行している間は供血者のスクリーニングの措置を検討されるべきである。
58	デング熱	CDC Traveler's Health (2010 April 19)	米国CDC(Centers for Disease Control and Prevention)による海外渡航者向けアウトブレイク情報が更新され、熱帯および亜熱帯地域でのデング熱について情報提供された。2009年初頭以降、デング熱症例数の増加が世界の数地域から報告されており、アフリカ・南太平洋・中央/南アメリカ、カリブ海、及び中東におけるデング熱の状況が報告されている。旅行者へのアドバイスとして、蚊にさせないように防虫剤の使用を薦めており、幼児・新生児への対応および服装について等アドバイスしている。また、症状は発熱・激しい頭痛・目の奥/関節/筋肉痛・嘔吐・吐気・嘔吐・出血症状などであり、予防のためのワクチンや治療のための特別な治療薬はないため、解熱などの処置が行われ、出血の可能性があるためアスピリンや非ステロイド性抗炎症薬の使用をさげること。また、早期発見・早期治療が死亡のリスクを下げることにつながる。
59	灰白髄炎	ProMED-mail 20091031.3768[2]	パキスタンの不安定なスワット地域で過去4か月にポリオ患者13人が確認されたが、その主な理由は、予防接種する医師が1年以上も子供達にアクセスできなかったためである。政府軍とタリバン武装勢力の強烈な戦いは2009年5月から始まり、軍事作戦は7月に終わったが、武装勢力のためポリオ撲滅チームは近づくことができなかった。パキスタンでは、2009年(10月まで)に62ポリオ症例が確認され、うち35例は北西部境界地区およびタリバン勢力地域で発生した。
60	口蹄疫	OIE 2010 March 1	中国における口蹄疫: 発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2010年3月1日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2010年2月22日にGUANGDONGで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数はブタ8,382頭、確定例はブタ1,474頭、死亡例0頭、屠殺8,382頭であった。
61	口蹄疫	ProMED-mail 20100301.0672	2010年2月、ベトナムSon La省の二つの地区で口蹄疫が広がっており、水牛および牛235頭、ブタ180頭が感染した。感染地域では感染阻止および撲滅の措置を講じている。
62	バルボウイルス	Blood 114(17): 3677-3683; 2009 October 22	成分輸血によるバルボウイルスB19感染を評価するために、供血者と受血者の関係が既知である保存血液検体およびB19V DNA定量可能なPCRを用いてB19V感受性(抗B19V IgG陰性)である受血者のB19V感染について調査した。105名の供血者から112のB19V DNA陽性の成分輸血を得て、輸血前のB19V IgG陽性率が78%である手術患者に対する輸血を評価した。B19V DNAが 10^4 IU/mL以下である成分輸血を受けた受血者24名には感染が認められず、B19V DNAが 10^4 IU/mL以上である成分輸血を受けた輸血前の抗体陽性である受血者1名に既往反応が認められた。B19V DNAが 10^4 IU/mL以下である成分輸血からは感染は起こらない、もしくは、まれであることが示唆され、献血の定期的なスクリーニングにB19V DNAのNAT検査は不要であることを支持している。
63	バルボウイルス	Emerging Infectious Diseases 16(3):561-564 March 2010	PARV4(parvovirus 4)は2005年にB型肝炎陽性のIDU(injection drug user)から検出され、また、古い血漿試料から調製されたヒト凝固因子濃縮製剤にも頻りに検出された。健康ボランティアの血漿試料および血友病患者に使用されたブタ血漿由来第8因子濃縮製剤(1994-2001年調製)からPARV4様ウイルスをスクリーニングした。その結果、血漿試料におけるPARV4様ウイルスの保有率は比較的低かったが、ウイルスはブタ血漿由来第8因子の製造中に濃縮されることで検出されたことが報告されている。

64	ウイルス感染	Emerging Infectious Disease 15(11):1830-1832 November 2009	MAYV (Mayaro virus)はアルファウイルス(Alphavirus)属トガウイルス(Togavirus)科に属し、genotypeDおよびLの2系統が確認されている。2008年2月、ブラジル北部サンタバーバラにある村でMAYVのアウトブレイクが起こり、患者は発疹、発熱および重篤な関節痛が最長7日間続いた。患者血清検体のIgMをELISAで検査した結果、36検体からMAYVに対するIgMが検出された。MAYV分離株3株がgenotypeDと確認され、また、村で捕獲した蚊にはMAYVの主要な媒介蚊であるHaemagogus janthinomysが含まれていた。
65	ウイルス感染 (ヘンドラウイルス)	ProMED-mail 20100203.0366	ブタが致死性ヘンドラ(Hendra)ウイルスに感受性があり、ブタを介してヒトに伝播する可能性があることをカナダの研究者が報告した。ヘンドラウイルスはオーストラリアでのみ発生し、野生の果実食コウモリによって媒介され、ウマは感染したコウモリの排泄物から感染する。ウマからヒトへの感染は7例あり、うち4例は死亡し、直近の死亡2例はウマの獣医師であった。カナダにおける研究では、ヘンドラウイルスを接種したブタ(2種類)は発熱・衰弱を呈し、接種後2-5日に全頭からウイルスが検出された。また、Queenslandのブタ100頭の群れの血清を検査した結果においては、500検体中にヘンドラウイルスに対する抗体は検出されなかった。
66	ウイルス感染	Transfusion Medicine 2009; 19: 213-217	アルブミン溶液、PTC(プロトロンビン複合体)およびFTX(血液凝固第IX因子)からB19V(バルボウイルスB19)およびTTV (torque teno virus)を除去するナノフィルトレーションの可能性を評価した。実験の規模を小さくし、各製剤に各々のウイルスDNA陽性血清を添加し、35nmに統一したナノフィルトレーションを行った。ウイルス量の測定はリアルタイムPCRによって行われ、15nmナノフィルトレーションは3製剤からB19Vについて4.0log以上の除去能を示し、TTVについては、15および35nmナノフィルトレーションによりアルブミン溶液およびFTXから各々3.0log以上の除去能を示した。また、これらの処理後、ウイルスDNAは測定されなかったが、一方、15nmナノフィルトレーション後のPTCではTTVが検出された。
67	ウイルス感染 (ヘンドラウイルス)	Vet. Res. (2010) 41:33 DOI:10.1051/vetres/2010005	ブタに人畜共通感染ウイルスであるヘンドラウイルス(HeV)を接種する実験を行った結果、ブタが宿主となることが示された。実験には2種類のブタが行われ、HeV接種された全頭に発熱・抑制が発現し、接種後5日には呼吸器徴候や7日には神経学的徴候を示すブタもいた。接種後2-5日では全頭の口・鼻・直腸より、接種後3-5日では眼よりHeV mRNAがReal-timeRT-PCRにより検出された。ウイルスRNAは、感染初期に主に呼吸器およびリンパ系から組織へと分布し、ウイルス分離によりウイルス感染が確認された。また、病的変化およびウイルス抗体による免疫組織学的染色は、ウイルスの組織分布と一致した。ブタはHeV感染に感受性があり、ヒトへの感染を仲介する宿主となる可能性が示唆される。
68	BSE	・CFIA (March 31 2010) ・Meat Trade News Daily (March 16 2010) ・Reuters (March 10 2010)	・カナダCFIA(Canadian Food Inspection Agency)は2010年にカナダで確認されたBSE(Bovine spongiform encephalopathy)症例についてのリストを公開しており、2010年3月31日現在、2月25日にアルバータ州の肉食用雌牛(71ヵ月)がBSE症例と確認された。 ・カナダで17例目となったBSEの発見は、利害関係のある業界には2月25日に連絡が成されたが、メディアや一般に向けての公表はなかった。このBSEの新規症例公表に関する取り決めは2009年8月に決定され、一般にはCFIAのホームページ上で情報提供される。新規BSEは、カナダで最もBSE発生が多いアルバータ州内で、6歳のアンガス黒牛についての監視プログラムで検出された。カナダでは2009年には5月に1例、2008年に4例、2007年3例、2006年には5例のBSEが発生している。 ・カナダで検出された新しい17例目のBSE感染牛は2004年2月の出生であり、(negligible statusへの更新は、BSE例の最新出生年から11年以内は申請できないため)OIE (World Organization for Animal Health)によるrisk statusの更新は2016年へと延期されるであろう。BSE感染牛は屠殺処分され、牛肉取引には影響はなかった。
69	クロイツフェルト・ヤコブ病	Neuropathology 29(5): 625-631; 2009 October	日本CJDサーベイランス委員会(CJD Surveillance Committee)により、最近の9年間で登録された患者に行われた医療(外科処置、脳神経外科処置、眼科手術および輸血)が調査された。孤発性CJD (sporadic CJD)753名と対照被験者210名から成る症例対照研究において、プリオン病がsCJD発症前に調査対象の医療を介して伝播したことを示すエビデンスを見出せなかった。これまでに報告された症例対照研究のレビューにおいて、輸血がCJDの有意なリスク因子であることが示された事はなく、本研究も同様の結果であった。本研究において、sCJD患者の4.5%はsCJD発症後に手術(0.8%が脳神経外科処置および1.9%が眼科手術)を受けており、sCJD発症後ですら手術(脳神経外科処置および眼科手術を含む)を受けた患者がいる事実は、医療処置を介したプリオン伝播の可能性を除外できないことを示唆している。
70	クロイツフェルト・ヤコブ病	Neuropathology 2010; 30(2): 159-164	PRNP(prion protein gene)のコードン180番目に点変異のあるCJD(Creutzfeldt-Jakob disease)の死亡例の報告である。77歳女性には不安定な歩行、続いて認知症・手足/体幹の運動失調となり、発病から26ヵ月後に肺炎で亡くなった。剖検の結果、大脳皮質には顕著な海綿状態・神経細胞消失・星状細胞のグリオシスを認め、多くの老人斑(stageC)および皮質原線維変化(stageIV)を認めた。PrP (prion protein)の免疫染色の結果、大脳皮質、特に海馬に粒状および斑点状のPrPが検出され、殆どの斑点状PrP沈着はアミロイドβプラークと一緒に存在し、本症例では、比較的強いPrP沈着とアルツハイマー型病変の同時発現が顕著であった。アミロイドβプラークがPrP沈着を促進する要因として作用しているかもしれない。

71	異型クローン フェルト・ヤコブ 病	ProMED-mail 20100107.0076 [1] (UK: National CJD Surveillance Unit - monthly statistics as of 5 Jan 2010)	英国CJDサーベイランスユニットの月間統計によると、2010年1月5日現在、2009年の確定もしくは疑いCJD患者の総数は170名(死亡:166名、生存:4名)である。2009年に2名のvCJD新規症例が登録されたが、英国におけるvCJDアウトブレイクは減少しているとする見解と一致している。
72	異型クローン フェルト・ヤコブ 病	Haemophilia 2010; 1- 9	英国において、vCJD(variant Creutzfeldt-Jakob disease)のリスクが高いと考えられるが、神経症状を呈しない血友病患者17例(剖検11例および生検7例)につき、疾病と関連のあるPrPres(protease-resistant prion protein)の検出を検討した。1剖検の脾臓組織はウエスタンブロット解析の結果、PrPres陽性を示した。組織の由来元である73歳男性患者は、神経症状を発現しなかったが、プリオン蛋白のコンド129番目がヘテロ型(メオニン/パリン)であり、vCJD感染ドナーからの供血を含む(もしくは不明な)第Ⅷ因子製剤を投与されていた。他にも赤血球製剤投与や外科手術、内視鏡を経験しており、諸要因を介する関連リスクのうち、英国血漿製剤投与からの感染が最も示唆される。
73	異型クローン フェルト・ヤコブ 病	UK Department of Health, SaBTO (Summary of the 8th Meeting); 2009 October 27	英国SaBTO(Advisory Committee on the Safety of Blood, Tissue and Organs)の第8回会議(2009年10月27日開催)の要旨が示されている。プリオンフィルターについて、プリオンフィルター処理赤血球の安全性を評価する臨床試験(PRISM trial)および同製剤の有効性評価からの新しいデータがvCJDワーキンググループから報告された。臨床試験の初期結果は有望であったが、この試験には完了までに時間がかかる事が分り、動物を使用した内因性因子による有効性研究からデータが得られるのは2014年になる。これらの情報と分析から、委員会は1. 本フィルターが感染を低減する十分な証拠が現在はあるとし、2. PRISM臨床試験の完了を条件とし、フィルター処理赤血球は1996年1月1日以降に生まれたヒトへの提供を推奨する。
74	異型クローン フェルト・ヤコブ 病	AABB Weekly Report 16 (10) 2010 March 12	NIH (National Institute of Health)の研究者はマウスにおいてプリオン関連の障害の特徴であるスポンジ様の脳損傷を引き起こさないプリオン病の新しい形状を報告した。この新しいプリオン病は脳アミロイド血管障害によるヒトの脳動脈を破壊するアルツハイマー病と似ている。本研究は、プリオン病の徴候が多数発現したが、プリオン病を代表するニューロン内外のスポンジ様の穴は観察されず、マウス脳には動脈、静脈および毛細血管の損傷により血管外で捕捉されたプリオン蛋白ブラークが蓄積されていた。
75	異型クローン フェルト・ヤコブ 病	Transfusion 50(5): 980-988	プリオン除去フィルターを用いた赤血球からのプリオン感染性の評価に、新しい高感度細胞培養を用いた研究報告である。1-2日培養のABO適合性ヒト赤血球にスクレイパー感染マウスの脳ホモジネートが添加され、標準の白血球除去フィルターもしくはプリオン除去フィルターにより濾過を行った。フィルター除去前後におけるプリオン感染性のレベルが、細胞培養を用いたSSCA(standard scrapie cell assay)によって測定された。その結果、全ての22層プリオン除去フィルターはSSCAの検出限界を下回りに(≥2.0log ¹⁰ LD ₅₀)、一方、10層の改良型では濾過後に感染性が残存していた。本in vitro感染性アッセイは、輸血を介した異型クローンフェルト・ヤコブ病感染リスクを減らすための装置のスクリーニングや発見に貢献するであろう。
76	レンサ球菌感 染	PLoS ONE 2010, 5 (1): e8795	GBS (Group B Streptococcus)の異種間感染を調査するために、68家族およびその家畜を対象に前向きコホート横断研究を行った結果、ヒトで12.3%(154例中19例)、動物で1.7%(115例中ウシ・ヒツジ各1例)のGBSが検出された。MLST (multilocus sequence typing)を用い、8種類の遺伝子型も同定された。また、GBS定着の認められた夫婦は、家畜である仔牛にもGBS定着が検出され、GBSの型は夫婦の型と一致した。質問書のデータを変量解析したところ、畜牛との接触はGBS定着を予測する結果となった。GBSは人畜共通感染の可能性があり、公衆衛生措置を必要とする結果が提示された。
77	コリネバクテリウ ム	Emerging Infectious Disease 15; 1314-1315 August 2009	ブタと接触のあったヒトにおける重篤なC.ulcerans(Corynebacterium ulcerans)によるジフテリア類似症状の報告である。2007年12月、ドイツで56歳女性農業従事者が1週間ほどに亘る咽頭痛および進行性嚥下障害のため入院し、広範囲の口腔咽頭の偽膜によりジフテリアが疑われ、その白色偽膜の咽頭スワブからは毒素産生性C.ulceransが培養された。発生源を特定するため、患者家族および家畜動物の調査が行われ、家族全員とイヌはC.ulcerans陰性であったが、ブタ19匹中1匹にC.ulcerans毒素産生株の保菌が認められた。ヒトおよびブタ株間のrpoBおよびtox配列は100%相同性を示し、また、リボタイピング解析の結果、ヒトおよびネコに認められるU1リボタイププロファイルと類似していることが示唆された。
78	炭疽	GMA News.TV 2010 February 28	フィリピンのCagayanで死亡した2例は感染した動物の肉を摂取し、炭疽菌による死亡と推察されており、また、150人以上が病院に運ばれたとの報告もある。この地域では、昨年、同じ種類の細菌が同じ町の住人数名に感染した経緯があり、死亡の原因究明のための診断を行っている。細菌は土壌に10年もしくはそれ以上残存しているため、死亡した動物を摂取しないよう勧告しており、また、患者および住民には炭疽病の治療薬が投与された。感染が疑われる地域での家畜動物は、直ちに処分するよう警告がされた。
79	炭疽	ProMED-mail 20100520.1677	米国サウスダコタ州南部中央のSioux郡で1例の炭疽症例が発生し、ノースダコタ州北東部・南東部・南部中央での報告が殆どであったのに対し、今回、初めて確定例が検出された。ノースダコタ大学は家畜生産者に対し、動物への炭疽ワクチン接種について、特に発生歴のある地域に対しアドバイスを行っている。ワクチンによる免疫獲得には約1週間かかり、約6か月で弱まるため、接種計画を確認すること、また、前回発生例の6マイル以内では接種をすること等の勧告が記載されている。

80	結核	CHEST 136(2); 2009 August	イランにおいて、MDR(multidrug-resistant)-TB(tuberculosis)患者におけるTDR(totally drug-resistant)もしくはXDR(extensively drug-resistant)TBの新しい型が検出された。分離されたMycobacterium tuberculosis株の1次および2次治療薬感受性が試され、spoligotyping法およびVNTR(variable numbers of tandem repeats)により、XDRもしくはTDRであるか同定された。146のMDR-TB株のうち、8株(5.4%)がXDRであり、15株(10.3%)がTDRであった。MDR-TB患者が受けた平均的な治療期間と薬剤は、5割の15か月投与による2コースであり、全研究症例のin vitroにおける薬剤耐性で共通するものは、INH(isoniazid)およびRF(rifampicin)であった。XDRもしくはTDR株は移民(アフガニスタン人・アゼルバイジャン人・イラク人)およびイラン人のMDR-TB症例の両者から集められ、塗抹および培養は2次治療薬を培地中に18か月間添加しても陽性であった。spoligotyping法により明らかとなったM tuberculosisのスーパーファミリー(Haarlem・Beijing・EAI-CAS)は異なるVNTRを示し、MDR-TB症例間で最近おきた伝播ではないことが明らかとなった。異なる国のMDR-TB患者からTDR株が分離された事から、アジア諸国での拡散の可能性が懸念される。
81	結核	ProMED-mail 20100107.0065	米国Yankton Countyの乳牛群で1頭の3歳牛にウシ結核陽性が確認された。州の獣医師は、乳牛群に対して追加検査を通して検査が行われており、現在、確定症例は1頭のみであるが、必要な措置を講じていると説明した。
82	結核	ProMED-mail 20100325.0948	米国Emmet Countyのウシ1頭が、定期ウシ結核サーベイランス検査の結果、ウシ結核陽性を示した。この農場から半径10マイル以内のすべての乳牛群は、6か月以内に検査が行われる予定であり、全例が陰性であれば、元のスケジュールに戻される。他に、野生オジロジカではウシ結核は継続的に存在しており、鼻と鼻の接触で感染することから、乳牛の餌が感染したシカの唾液などから汚染される事で、より感染が起こりやすくなる。
83	結核	ProMED-mail 20100409.1144	米国Nebraska州北部で1頭の新しいウシ結核症例が検出され、7つの乳牛群が検査下に置かれている。ウシ結核が感染した乳牛からヒトへ感染することはまれであるが、牛肉は適切に処理され、ミルクは殺菌されている限り、食べ物を介したウシ結核の拡散の危険はほとんどない。2009年6月に2例がRock Countyで検出され、Nebraska当局は22,000頭の乳牛を検査したが、今回の調査はこの時よりは小さいと予想している。
84	結核	ProMED-mail 20100528.1768	米国ケンタッキー州で2頭の乳牛にウシ結核陽性が確認され、3頭目は検査中であると報告された。最初のウシがペンシルベニアで屠殺される際に陽性が確認され、他の疑い2例中1頭が検査の結果陽性であった。この3頭は食肉として流通しておらず、また、ウシ結核がヒトに感染するのは稀である。
85	サルモネラ	Antimicrobial Agents and Chemotherapy. 2010; 54(1): 551-553	アイルランドの家畜における、広域セファロスポリン耐性であるSalmonella enterica serovar Kentucky (S.Kentucky)の出現についての報告である。2000年1月-2008年9月にアイルランド国内でヒトおよび動物から検出されたS.Kentucky925株のうち、すべてセファロスポリン感受性であったが、2008年10月-2009年3月では115株のうち7株がセファロキシムおよびセフトジジムに耐性であり、セファロスポリン耐性株はニワトリおよび鶏舎粉塵から分離された。分離株のβラクタマーゼ遺伝子(bla)を解析した結果、bla _{CMV-2} 遺伝子は3株およびbla _{SHV-12} 遺伝子は4株に検出され、いずれも家畜由来S.Kentuckyからは初めてである。また、分離株につき、PFGE(Pulsed-field gel electrophoresis)、Class 1 integronなどの結果が示された。アイルランドでは、家畜生産にセファロスポリンの使用は承認されていないが、アモキシシリンの使用がβラクタマーゼを産生し維持する選択圧となっている点に着目が必要である。
86	コレラ	WHO 31(84): 309-324; 2009.July 31	2008年の世界各國のコレラサーベイランスの要旨がWHOから報告された。2008年にWHOに報告がなされたコレラの症例数および報告国は2007年より増加し、症例数については7.6%および報告死者数は27.5%増加し、2008年のCFR(case-fatality rate)は2.7%であった。死者数の98%はアフリカ大陸からの報告であり、22カ国ではORFは1-4.9%、5カ国では5.5-14.3%であった。WHOは下痢性疾患の62アウトブレイクを検証した結果、34カ国における55(89%)はコレラアウトブレイクと確認され、45(82%)はアフリカ、10(18%)はアジアであった。また、感染のバターンおよびアウトブレイクについて、アフリカ・アメリカ・アジア・ヨーロッパ毎に概説されており、ワクチンについても更新情報が報告されている。
87	ブルセラ症	OIE 2009 September 21	スイスにおけるブルセラ症:発生日 2009年9月9日、最初の確定日 2009年9月16日、報告日 2009年9月18日、原因 ブタ流産菌(Brucella suis)。2009年9月9日にGENEVEでブルセラ症のアウトブレイクが発生した。飼育頭数52頭、確定例ブタ39頭、死亡例1頭、屠殺例38頭であった。
88	ブルセラ症	OIE 2010 February 9	ドイツにおけるブルセラ症:発生日 2009年12月2日、最初の確定日 2009年12月18日、報告日 2010年2月9日、原因 ブタ流産菌(Brucella suis)。2009年12月2日にBRANDENBURGでブルセラ症のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ38頭、確定例ブタ5頭、死亡例0頭、屠殺例5頭であった。
89	ブルセラ症	ProMED-mail 20091215.4249	米国Idaho群でブルセラ症陽性の2頭目の動物(乳牛)が確認され、この群内のすべての動物が検査され、ほとんどの結果が出ている。前週、ブルセラ症の疑いのあった1頭目(ワクチン接種されていた15歳ウシ)は、異なる検査の結果、未感染であった。感染源は不明であるが、接触のあったヘラジカもしくはバイソンによると考えられている。乳牛の移動により、ブルセラ症が州を越えて蔓延する事が懸念されており、ブルセラ症フリーのCalifornia州は現状を保ちたいとしている。

90	ブルセラ症	ProMED-mail 20100401.1048	米国northwestern Wyomingのヘラジカ群でブルセラ症が増加しており、最近の乳牛のブルセラ症例はヘラジカから広がったと考えられている。ブルセラ症の増加の仮説としては、ヘラジカの密度が高くなったために、ヘラジカ間のブルセラ症感染頻度が高くなった。もしくは、診断検査が、発病率が高くなっている他の病気の交差反応を起こしているという可能性が考えられた。
91	ポツリヌス中毒	ProMED-mail 20100404.1084	米国Wisconsin州Rusk Countyで、ある一家のウマ5頭が死亡し、また近くの農家で乳牛が死亡していることについて、獣医師はポツリヌスによる疾病であると報告した。ポツリヌス毒が土壌から検出されており、ウマの飼料である馬草に孢子が生えたと予測されている。ウマがポツリヌスに罹った場所を特定するために、農場由来の馬草が検査されている。
92	クラミジア	Infection, Genetics and Evolution 9; 1240-1247; 2009	フランスにおいて、家禽屠殺場の従業員3例に非定型肺炎がおき、10の養鶏場で疫学調査が行われた。25調査群中14群にクラミジア関連因子が検出され、オウム病クラミジア(<i>Chlamydia psittaci</i>)が検出されたのは陽性群中1群のみであり、これまでに分類されていない新規クラミジア属の存在が明らかとなった。更に6陽性群からクラミジア菌を分離した結果、すべてのサンプルにおいて16s rRNA遺伝子配列の相同性はほぼ一致し、また、現在認められているクラミジア属の株とは異なるが、同属であることが示された。一方、ompA遺伝子の配列は分離期間で大きく異なった。各農場はこの新しいクラミジアの異なる株によって感染されたことが示された。
93	細菌感染	Transfusion 49; 2152-2157; 2009 October	日本において初流血除去導入前および導入後の血小板濃厚液(PC)の細菌汚染頻度を調査した。日本赤十字社が供給する、初流血除去導入前および導入後の有効期限切れPCを用い、保存から4日以上後に血小板検体をサンプリングし、好気性および嫌気性ボトル双方に10mL量を接種した。その結果、細菌汚染は初流血除去導入前後で0.17%(36/21,786)から0.05%(11/21,783)に減少し(減少率71%)、このうちacne菌を除いた臨床的に重要な細菌の汚染件数は4件(0.018%)であった。本結果より、初流血除去の効果は細菌汚染頻度において顕著であった。また、細菌汚染頻度は西欧諸国と同等であり、培養スクリーニング検査は非実施であるにも関わらず、日本ではPC輸血後の敗血症反応の発現頻度が低いのは、日本でのPCの保存期間が72時間と短い事が理由として考えられ、この重要性を示唆する結果であった。
94	細菌感染	FDA CBER Transfusion/Donation Fatalities Annual Summary 2009	2009年度(2008年10月1日~2009年9月30日)にFDAが報告を受けた供血後および受血者の死亡例の年報の概要が公表され、全80死亡例のうち、74例が受血者、6例が供血者に関する報告であった。前者につき、a)44例は輸血に関連した死亡 b)輸血を死因から除くことが出来ない死亡 c)8例は輸血との因果関係がない死亡、と結論が成され、輸血に関連した死亡の第一の原因はTRALI(Transfusion Related Acute Lung Injury)で13例(30%)あり、過去5年間では減少を続けている。2009年度ではHTR(Hemolytic Transfusion Reaction)およびTACO(Transfusion Associated Circulatory Overload)が第二の原因であるが、HTRについては2008年度より減少を示した。なお、ABO不適合によるHTR死亡4例は人為的ミスによるものであった。また、細菌感染による死亡5例中2例は黄色ブドウ球菌(過去5年間の累積では1位のバベシアに次いで2位)が原因であった。2008年度に5例報告のあった赤血球に関連した細菌感染の報告はなかったが、この5例はすべてバベシア感染であった。apheresis血小板に関連した感染は微増を示したが、2001年度以降減少傾向にある。
95	真菌感染	ProMED-mail 20100426.1341	空中浮遊真菌であるCryptococcus gattiiにつき、米国における新しい遺伝子型の発生および病原性について研究が発表された。この新しい型はオレゴン州で死者を出し、カリフォルニアや近隣州へ移動する態勢にある。米国・太平洋北西部での最近のc.gattii症例(21例)の死亡率は25%であり、一方、カナダ・British Columbiaでの218例中19名の死亡(8.7%)である。高病原性である新規c.gattiiは弱毒株の遺伝子組換えが起きた可能性があり、研究者らは、新規遺伝子型VGIIcがオレゴン州におけるc.gattii症例の主な原因である事を見いだした。このVGIIc型の起源は分離されていないが、家畜動物であるネコ・イヌ・アルパ・カヒツジからの検出は、地域での獲得を示唆している。
96	アメリカトリパノソーマ症	Transfusion 49 (supplement); 2009 (AABB Annual Meeting and TXPO; 2009 October 24-27)	米国の血液供給におけるT.cruzi (Trypanosoma cruzi)スクリーニングの費用対効果についての報告である。米国の供血液の75-80%はT.cruziスクリーニング検査が行われており、29,000名当たり1名が陽性と考えられる。本報告では、T.cruziの脅威とその制圧にかかる費用を評価するために、異なるスクリーニング条件下で受血者の仮想コホートを設定し、生涯コストと健康に関する結果を比較するために、病期進行モデリングを用いた。7つの供血者もしくは献血検査の方法を分析し、スクリーニングしない場合と比較した。その結果、モデルにおいて最も影響のあるパラメーターは輸血された患者層の特徴と関連しており、生存率、健康状態一般(utility)および将来の健康状態の低下率である。T.cruziに関しては、血清陽性率および伝播率が最も影響している。本分析は、選択的なT.cruziスクリーニングは全数検査とほぼ同等の効果があり、低コストであることを提示している。

97	ベスノイチア症	FESA Journal 2010; 8(2); 1499	EFSA (European Food Safety Authority: 欧州食品安全機関)は動物の健康および福祉に関する委員会 (Panel on AHAW)にbovine besnoitiosis (ベスノイチア症)に関する科学的見解を報告するよう求めた。最近の疫学的データは、EU加盟国内の畜牛群にbesnoitiosisの症例数増加および地理的広がりを裏付けており、bovine besnoitiosisはEUにおいて新興疾患と考えられる。しかし、bovine besnoitiosisの疫学は流行地域における感染・疾病の発病率・発生率、感染のルートおよび感染・疾病に関連したリスクファクターについて不明のままである。感染は、嚢胞を形成するアピコンプレックス寄生虫Besnoitia besnoitiによって引き起こされ、急性期および慢性期の両方で深刻な有害害象を起こす。委員会はこの疾病について、特に農場主および獣医師に、臨床症状および伝播ルートについて注意喚起する重要性を強調している。欧州での感染地域における疫学調査は、感染動物の重要性および伝播ルートの解明を必要としている。疫学および疾病診断の進歩に関連した未回答の疑問に答えるためには、診断手段が更に発展し標準化される必要がある。besnoitiosisをコントロールするための適切な手段および戦略は有効な疫学的情報を用いて調査される必要がある。
98	Q熱	AABB Weekly Report 2010 March 19	オランダの血液バンクはオランダ国内で予想されるQ熱の2010年アウトブレイクに対する準備を行っている。疾病対策センターからの声明によると、11月25日現在、2009年のオランダでは6死亡例を含む2,293症例が確認された。オランダ国内で血液/生薬業務を担当しているSanquinは、Q熱流行の期間、高リスク地域からの供血血液をスクリーニングするNAT(nucleic acid amplification testing)検査を実施予定である。2009年8月にTransfusion誌のsupplementにQ熱、Coxiella burnetiiを含めた病原菌のファクトシートが掲載されたが、AABB's Transfusion Transmitted Diseases Committeeはファクトシート更新のためにオランダからのデータを使用する予定である。
99	バベシア症	ABC Newsletter #41; 4-5; 2009 November 13	ARC (American Red Cross)はバベシア症の拡大報告を受け、米国7州での供血検査の実施を提案している。近くTransfusion誌に掲載予定の研究報告3報では、1. 供血液のBabesia microtiに対するIgG抗体を調査した結果、コネチカット州およびマサチューセッツ州で広範囲な拡大が確認され、2. ロードアイランド州における輸血を介した感染の広がりを特定し、3. 2005-2007年にARCのHemovigilance Programに報告されたTTB (transfusion-transmitted babesiosis)症例の分析が成された。これらの報告は、バベシア症およびTTBが増加している危険性への懸念が強調されており、ARCは感染地域での供血液検査を行う2つの提案を作成した。まずコネチカット州でIFA(immunofluorescence assay)による(全血献血された)供血液検査、陽性供血者の供血延期などを行い、この結果次第ではあるが、他の6州でも検査範囲を広げる予定である。バベシア症はIxodes属のマダニによって伝播し、大部分の感染者は無症候か軽症で何ヶ月も続く可能性がある。現在、FDAが認可した検査方法はなく、寄生虫保有者が供血した場合、受血者への輸血を介した感染の可能性がある。
100	マラリア	CDC/MMWR 2010 March 5	2010年1月12日にマグニチュード7.0の大地震がハイチを襲い、20万人が亡くなり、50万人が家を失った。Plasmodium falciparumによるマラリアがハイチでは流行しており、塵外でマラリアに感染するリスクが広がっている。米国CDC(Centers for Disease Control and Prevention)は11例のP.falciparumによるマラリア確定症例の報告を受け、このうち7例は米国籍であった。本報告では、この11症例の概要およびハイチへ旅行するヒトへの適切な化学療法によるマラリア予防についての推奨が報告されている。
101	繊毛虫症	Am. J. Trop. Med. Hyg. 81(2); 313-316; 2009	繊毛虫症における心合併症: 左心室血栓症の3例目の症例報告である。ルーマニアにおいて42歳女性が発熱・悪寒・悪心・嘔吐・疲労・筋肉痛・全身筋力低下により入院したが、これらは調理不十分な豚肉を食べた3週間後に現れ、豚肉には繊毛虫の感染が確認された。検査の結果は、繊毛虫症を示唆する軽度の白血球増加症・炎症・軽度の肝臓および筋肉の細胞融解性症候群を示した。心エコーは心尖部の運動低下および血栓様の心尖腫瘍を示し、繊毛虫抗原を調べる免疫学的検査は陽性であった。治療後の結果は良好であり、軽度の心電図変化が残る程度であった。
102	その他	BBC News (2009 September 21)	スコットランド全域で若い畜牛が死亡する原因不明の疾病の調査が行われている。これまでに、18農場から25例が1ヶ月齢未満の動物が罹患する出血性仔牛症候群(Bleeding Calf Syndrome)と確定された。SAC (Scottish Agricultural College)の専門家は、ほとんど未知であるが、これまでに死に至る病気の急増は説明されていないと報告した。罹患した畜牛は発熱が続く、開口部および内部に至る。病気の原因は不明であるが、中毒、遺伝的異常および薬物反応が考えられている。イングランドおよびウェールズにおいても同様の例数が特定されているが、乳牛群のみに検出されている。